

校内にて

入学式

April 09,2012 23:15

4月9日（月）は午前が始業式、午後が中学・高校合同の入学式でした。桜は未だ蕾の状態ですが、春の日差しがポカポカと暖かく、そして何より、予定通りの日に入学式をできたことが嬉しかったです。

入学式には在校生は参加できませんでしたので、校長式辞を掲載させていただきます。

2012年度入学式 式 辞

春4月、寒さも緩み、桜の蕾みも漸く膨らみ始めました。この美しい聖堂において、D学院中学校第24回入学式、ならびに高等学校第53回入学式を挙行できます喜びを、そして何でも無い事なのですが、年間計画に定めた予定通りの日に挙行できることへの感謝の気持ちを、今ここにおいでの皆様方と分かちあいたいと思います。

中学校24回入学生、高等学校53回入学生の皆さん。たった今、皆さんはクラス担任の先生から一人ひとり名前を呼ばれ、それぞれが元気良く返事をして、晴れてD学院中学校高等学校への入学を許可されました。

貴女方131名の一人ひとりを心から歓迎します。ご入学おめでとうございます。また、新入生の保護者の皆様、ご息女の入学、誠におめでとうございます。

さて、昨年3月11日の東日本大震災以来、私たちにとって正に試練の日々が続いております。膨大な瓦礫処理の問題、原発による放射能汚染と再稼動の問題、津波対策と高台移転の問題、寸断されたままの鉄道の再開問題、親を失った震災孤児の問題、仮設住宅の孤独死の問題、そして何より辛いのは自死の問題です。どれひとつを取ってみても、あまりにも大きすぎて、何が正しくて何が正しくないのかよく分からない、大変な問題ばかりです。

一見、中学生や高校生がどのように頑張っても、

何とかできる問題ではないかのように思われます。
しかし、皆さんの先輩たちは行動を起こしました。
1年が過ぎた今でも、毎月毎月交代で街頭募金活動を続けています。
先月31日の土曜日も、生徒会執行部やボランティア同好会の生徒たちが
腕に喪章をつけ、一番町のアーケード街に立ちました。
大きな声で被災者支援を呼びかけました。
協力いただいた募金は一貫して、桃柿育英会に寄付しています。
震災で親を亡くしてしまった子どもたちが高校を卒業するまでの
支援に使っていただけるそうです。

そのように、優しく、強く、自由な中学高校在校生たちとともに、
私たちは、新入生と保護者のみなさんが、Dファミリーという
教育共同体の一員となってくださったことを、心から歓迎いたします。
ようこそおいでくださいました。

新入生の皆さんは、進学に当たり数多ある学校の中から
良くぞD学院を選んで下さいました。
嬉しく思います。
学校選択には多少の迷いもあったのかも知れませんが。
しかし、皆さんの選択は正しかったことを断言いたします。
これからの3年間ないし6年間、私が責任をもって保証いたします。

D学院は『真理・VERITAS』をモットーとし、
800年の長く深い物語に彩られた、
世界各国に姉妹校を持つ世界ブランドの学校です。

はじめに、本学院がその名をいただいている聖ドミニコと
真理の関係についてお話しします。

聖ドミニコが活躍した13世紀初めのヨーロッパは、
封建社会から市民社会へと移行する激動の時代でした。
変化が激しく先行きの不透明な時代には、人々の不安に付け込んで、
様々な思想や新興宗教が現われます。

中でもフランス南部で勢いを伸ばしていたのは、
表面上はキリスト教を装いながら、実質は全く異なる
カタリ派と呼ばれる宗教でした。
カタリ派は極端に厳しく苦しい修行を要求したので、
それができない殆どの人々を絶望させていました。

若き日の聖ドミニコはこの状況に出会い、何とかして人々を安心させたい、幸せにしたい。神様は全ての人を平等に愛してくださることを伝えたい、という思いで活躍しました。

その聖ドミニコの信念が

「誤謬を正すのは、真理を説くことによってである」というものです。相手を理論で説き伏せるのではなく、相手が真理の光に照らされて、自分の力で正しい理解ができるように手助けをする、というのが聖ドミニコのやり方でした。

聖ドミニコを始祖と仰ぐ本学院も、同じ精神を受け継いでいます。

生徒達一人ひとりが、自分は神様に愛されていることを知り、自分が神様からいただいている能力を発見し開花させながら、ますます本当の自分自身になっていく手助けをする。このことを私たちは自身の使命・ミッションと考えています。

そして、自分は完全な存在として生まれてきたのだという誇りと喜びを持って欲しい。

感謝のうちに自分を愛し 他者を愛する人になって欲しい。

仲間たちとお互いの優れたところを見つけ合い、信頼関係を深めながら、社会をより良くする人に育てて欲しい。

これが「真理・VERITAS」をモットーとする本学院教職員共通の願いであります。

次に、本学院が描く15歳と18歳のプロフィールについてお話します。プロフィールとは本学院が育てようとしている人間の姿です。

本学院中学校が描く15歳のプロフィールは

「知性を愛し、いつも輝いている15歳」です。

志を高く掲げ、日々自分を磨くことにより「あなたがたは世の光である」と聖書にあるように人々の前に輝く15歳となることを目指しています。

2000年前、イエス様の時代の灯りと云えば、

油に芯を垂らしたランプのようなものだったでしょう。

燃料である油にしても、油が燃える手助けをする芯にしても、周りを明るく照らし出すためには、自分を燃やして炎の熱さに辛抱しなければなりません。

中学校新入生の皆さんは、まずは15歳になるまでに、

先生や保護者の力を借りながら、自分が輝くことを目指しましょう。

そして、いずれ社会に出て、一人前になってからは、他者を輝かせるために、そして暗闇の中を明るく照らすために、

自分の命である時間を燃やすことのできる人間に成って欲しいと願っています。

本学院高校が描く18歳のプロフィールは

「地の塩としての人間的基礎ができていること」です。

卒業する頃には他者と共に生き、自己の存在そのものが他者を生かすことのできる、人間としての基礎ができていることを目指しています。

地の塩も聖書に書かれている大切な言葉です。

塩は料理の中で溶けると見えなくなってしまうですが、

肉や野菜など素材のうま味を引き出して美味しくしてくれます。

腐敗を防ぐ効果や殺菌作用もあります。

すなわち、地の塩とは組織やグループの中で、目立たないけれども大切な役割を果たしてくれる、かけがえの無い存在のことを意味します。

以上、本学院が描くプロフィール「世の光と地の塩」の共通点は、自分を犠牲にして他者のために生きるところにあります。

少し難しい話になってしまいました。

中学と高校の新入生の皆さんは、よく分からないかもしれません。

しかし大丈夫です。

今日から始まる本校でのスクールライフを楽しみながら、

「心を耕し学力と体力を植える」日々の積み重ねの中で、

少しずつ分かってくるはずですよ。

本学院の教職員全員を代表して、皆さんが「地の塩、世の光」として社会へ巣立つその日まで、最大限支援することを約束いたします。

保護者の皆さま、本学院の教育方針へのご理解と、

教育活動へのご協力をお願いいたします。

地域の皆さま、ご来賓の皆さま、生徒は家庭と学校だけで育つものではありません。

社会の中で皆さまに見守られながら、育って行くものだと考えています。

どうか温かい目で見守り、励ましていただきますことを、

高いところからではございますが、心よりお願い申し上げます。

それでは、新入生の皆さん。

今日から始まる本校での学院生活が、

花に満ち、水に満ち、鳥に満ち、

何よりも神の愛と

より多くの良き人々に満ちることを
祈念して私の式辞といたします。

2012年4月9日

D学院中学校高等学校 校長 TN